

番組審議会

第684回

2024年7月8日

■ 審議会の構成

委員総数	10名
委員長	音 好 宏
副委員長	江 澤 佐知子
委 員	尾 縣 貢 萱 野 稔 人
	喜田村 洋 一 田 中 東 子
	洞 口 依 子 長 嶋 有
	水無田 気 流 目加田 説 子

TBSテレビ	龍 宝 社 長
	合 田 専 務
	瀬戸口 取締役
	三 城 コンテンツ戦略局長
	荒 井 報道局長
	延 廣 報道局編集部 統括編集長
	藤 田 編成考査局長
	浜 崎 カスタマーサクセス室長
	満 田 番組審議会事務局長

■ 議事概要

(1) 審議事項

- 1) 「TBS/JNNの災害報道 南海トラフ巨大地震への備え」報告
- 2) その他

(2) 事務局報告事項

- 1) 視聴者からの声について
- 2) 次回審議会の議題及び日程について

【委員の主な意見】（「TBS/JNNの災害報道 南海トラフ巨大地震への備え」について）

- 地方局とTBSという在京の大きい局との連携は前から気になっていた。災害はどんな地方でもできるだけ報道された方がいいので、今後も継続していってもらいたい。
- TBS、JNNでは南海トラフに備えた訓練を実施している、これはすばらしいし頼りになる。災害報道においてトップランナーの役割を期待する。
- 災害の警報が鳴るとまずはスマホを見てしまう。スマホで情報チェックしてしまうという観点で見ると、民放局が冷静に情報提供を行ってもらえると有り難い。
- インバウンドで日本全国にたくさんの外国の方々が来ているが、地震を経験したことがないような外国の人たちに向けて、情報をどう冷静に発信するかも検討してほしい。
- ネット時代の災害報道は虚偽か真実か見極めが難しい中、JNNが取材に基づく情報をきちんと提供していくことはこれからますます重要になる、
- 「南海トラフ地震臨時情報」が出たとき、その報道が何を意味しているのか、視聴者に理解してもらうための番組が事前に必要になってくると思う。
- 速報性と信頼性を両立できるメディアはまだテレビ。どの地域でどんな大災害が起きても、JNNのネットワークで、ロジスティックもしっかり揃えて災害報道を継続していくことが重要なインフラになると思う。
- 震災時のデマの拡散、情報災害がどう起きてしまうのかも、マスメディアは普段からシミュレーションして備えておくべきかもしれない。

- 災害時には、被災地にいない人にも正確で迅速な情報が必要だと思う。能登半島地震でのTBSの長時間の特番は、すぐに情報を取れない人たちにとって安心感をもたらした好例だと思う。

- JNNという縦での議論・訓練はすごく大事だが、一方で横、他系列とどう展開していくか。この後の自然大災害に向けた情報共有など、競争しながら協働する形づくりは予防のための報道につながるのではないか。

TBSテレビでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内の向上に活かしていく所存です。(番組審議会事務局)